

豊橋市立くすのき特別支援学校 10年のあるみと課題



令和7年8月25日（月）
豊橋市立くすのき特別支援学校

本日の流れ

I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

教育目標

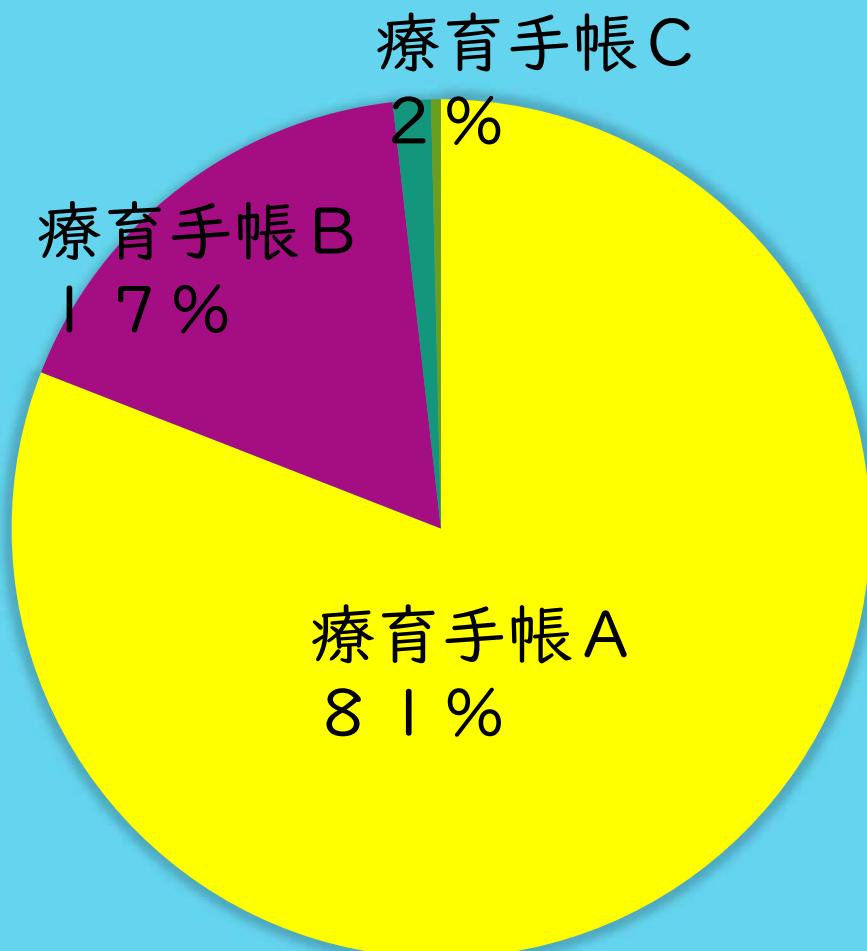
一人一人の障害、能力・適性等を踏まえ個に応じた指導・支援によって、その子の可能性を引き出し、学校、家庭、地域社会でたくましく生きることのできる人間の育成を目指す。

R7児童生徒数

R7.8.1現在

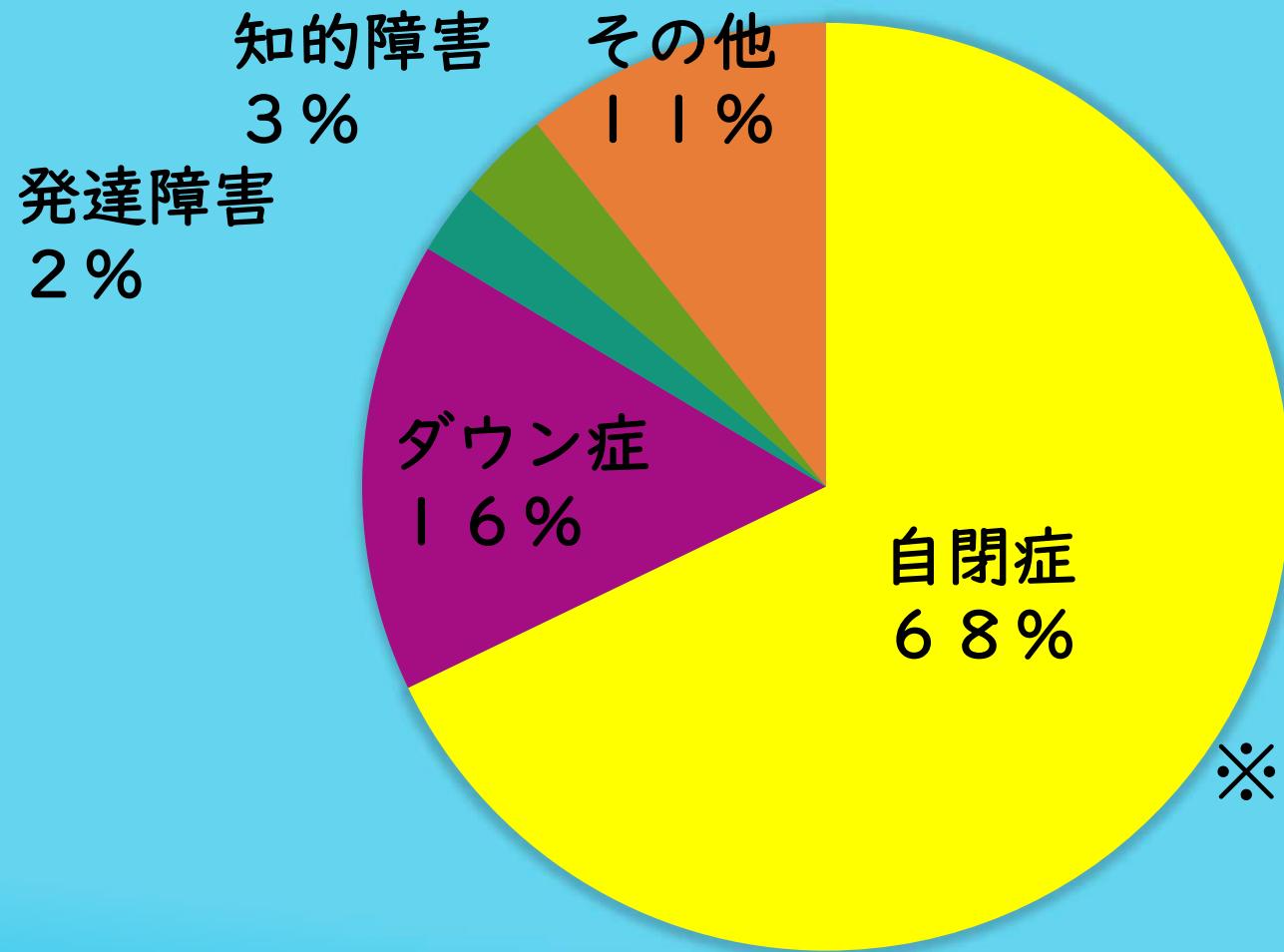
	児童生徒数	学級数	
小学部	128名	27学級	
中学部	87名	17学級	
高等部	普通科	産業科	普通科
	62名	25名	3学級
計	302名	56学級	

療育手帳内訳（小・中・高等部普通科）



※高等部産業科は、
ほぼ疗育手帳C
※全校で16名が
身体障害者手帳も
持っています。

主障害内訳（小・中・高等部普通科）



※高等部産業科は
ほぼ知的障害

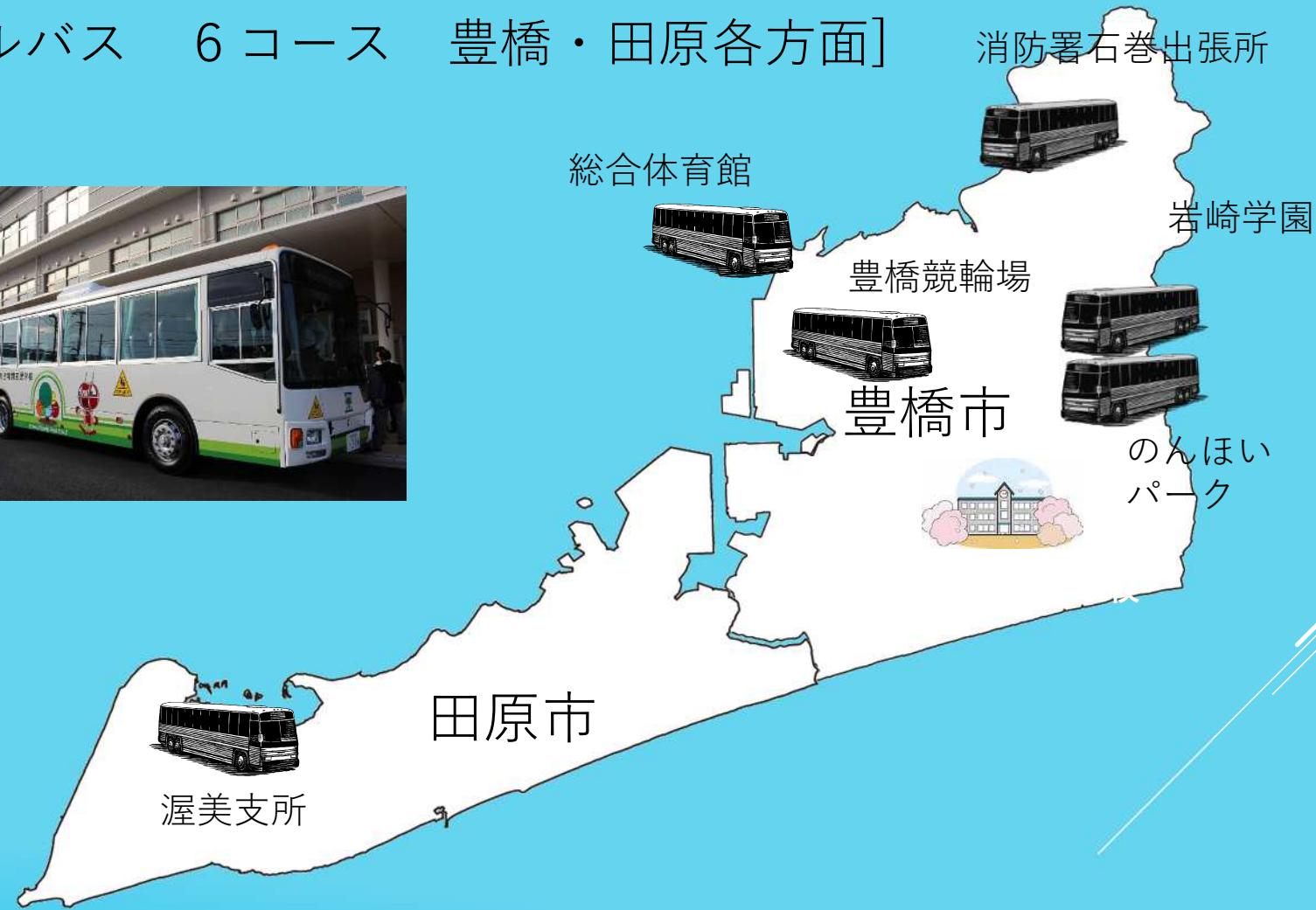
通学地域別児童生徒数

令和7年8月1日現在

	豊橋市	田原市	計
小学部	111人	17人	128人
中学部	76人	11人	87人
高等部	67人	20人	87人
計	254人	48人	302人

通学方法（普通科）

[スクールバス 6コース 豊橋・田原各方面]



I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

平成26年度 愛知県立豊川特別支援学校
全校89学級 児童生徒数521名

- ※図書室、美術室等の特別教室はもちろん、教材室（倉庫）等も使用せざるを得ない状況。
- ※田原（めっくんはうす）発のスクールバスは学校着までに1時間25分程度かかり、旧渥美地区の生徒は始発のバス停まで、さらに車で40分程度かかっていた。

愛知県立豊川特別支援学校の過大化（当時 全国で最も児童生徒数が多い特別支援学校の一つ）解消に向け、保護者の「豊橋市に知的障害のある子どもが通う特別支援学校がほしい」との要望が高まり、豊橋市が市立の特別支援学校を設置することを決定。

- ▶平成23年 豊橋市教育委員会定例会において「豊橋市立特別支援学校整備の基本的な考え方」が承認される。
- ▶平成25年 豊橋市立特別支援学校校舎等建設工事 開始
- ▶平成26年 豊橋市立くすのき特別支援学校開校準備事務室発足
- ▶平成27年 豊橋市立くすのき特別支援学校開校



H 27 開校記念式典



H 2 7 運動会



H 27 くすのき祭



H 28 中庭 遊具の寄贈



H 28 スマイルカフェ開始



H29 和ハウス（ビニールハウス）完成



H 3 0 高等部産業科 新設



R2 コロナ臨時休校開け
感染拡大防止を講じての くすのき祭



R 4 中庭 遊具の寄贈



R 6 10周年記念式典

I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

高等部



中学部



作業学習

小学部

日常生活の指導（着替え、排泄、食事等）
生活単元学習・自立活動・各教科（国語・数学・音楽・体育等）
遊びの指導



I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

高等部（産業科）の授業

各授業を通して、職業自立や就労意欲の向上を目指します。



農業（栽培管理）

- ・さつまいも（菓子製造・販売）
- ・ミニトマト（販売・ふるさと納税品）



農業（食品加工）

- ・菓子製造
(スイートポテト、マドレーヌ、プリンなど)



流通・サービス



清掃



スマイルカフェ運営



工業

- ・木工製品
- ・安全教育

I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

III 今後の課題

交流及び共同学習

- ▶ 野依小学校（小学部）

各学年、年2回程度の交流（本校及び野依小学校にて）

- ▶ 南稜中学校（中学部）

くすなん会として年2回交流、本校は全員、南稜中学校は1年生
(本校及び南稜中学校にて)

- ▶ 愛知県立渥美農業高等学校、愛知県立豊橋南高等学校、
愛知県立豊橋工科高等学校（高等部）

年1～2回程度、各校の専門性を生かした交流

地域の人材・特色を生かした指導

- ▶スマイルカフェ（高等部産業科）
 - ・地域の人の憩いの場に
 - ・野依校区の敬老会記念品にスマイルカフェのチケット
- ▶くすのきトマト
 - ・JA豊橋さんの協力をいただいてビニールハウスでの水耕栽培
- ▶近くの保育園・高齢者施設での家庭科実習（高等部産業科）
- ▶野依校区の行事への参加
 - ・野依校区文化祭、野依しだれ桜祭
- ▶豊橋市こども発達センター定期相談会
- ▶地元企業・組合等を招いての地場産業に関する体験学習等



ちくわづくり



豊橋カレーアンドんづくり



花育



うずらいも収穫（道の駅）



清掃学習会

地域の特別支援教育におけるセンター的役割

職員人事交流

- ▶ 豊橋市からは毎年2名ずつ、3年間の人事交流
- ▶ 田原市からは1名、3年間の人事交流

巡回指導等

- ▶ 年12回程度、地域の小中学校に出向いての支援
- ▶ 高等学校からの依頼も増えている

ケース会・現職研修等の講師の依頼

- ▶ くすのき相談センターと連携して対応

I 学校概要

- ①現在のくすのき
- ②10年のあゆみ

II 本校の教育の特色

- ①12年間のつながりを生かして（小学部・中学部・高等部普通科）
- ②一般就労を目指して（高等部産業科）
- ③地域とのつながり

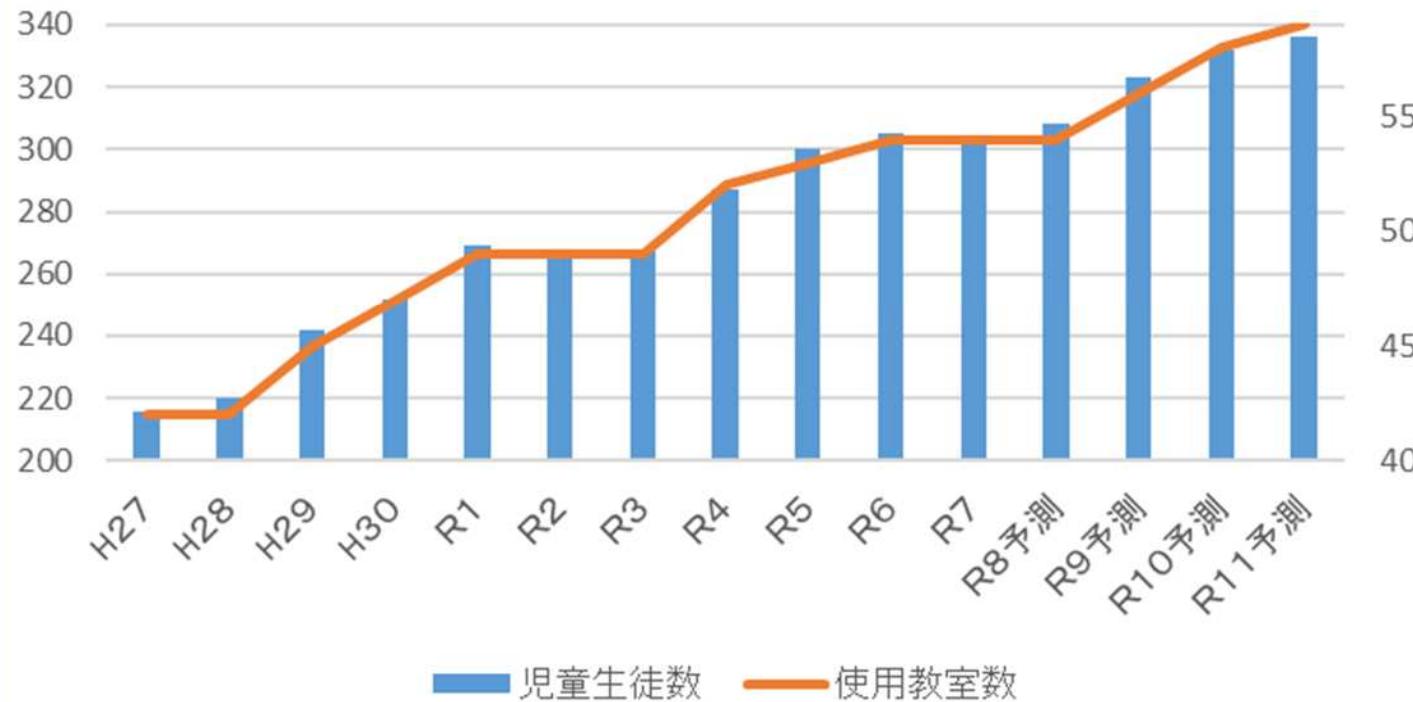
III 今後の課題

本校の喫緊の課題

一児童生徒数の増加に伴う対応一

- ▶普通教室の不足
- ▶スクールバスの不足
- ▶運営費の不足
- ▶介護員、非常勤職員等の職員数の不足

児童生徒数・使用教室数の推移

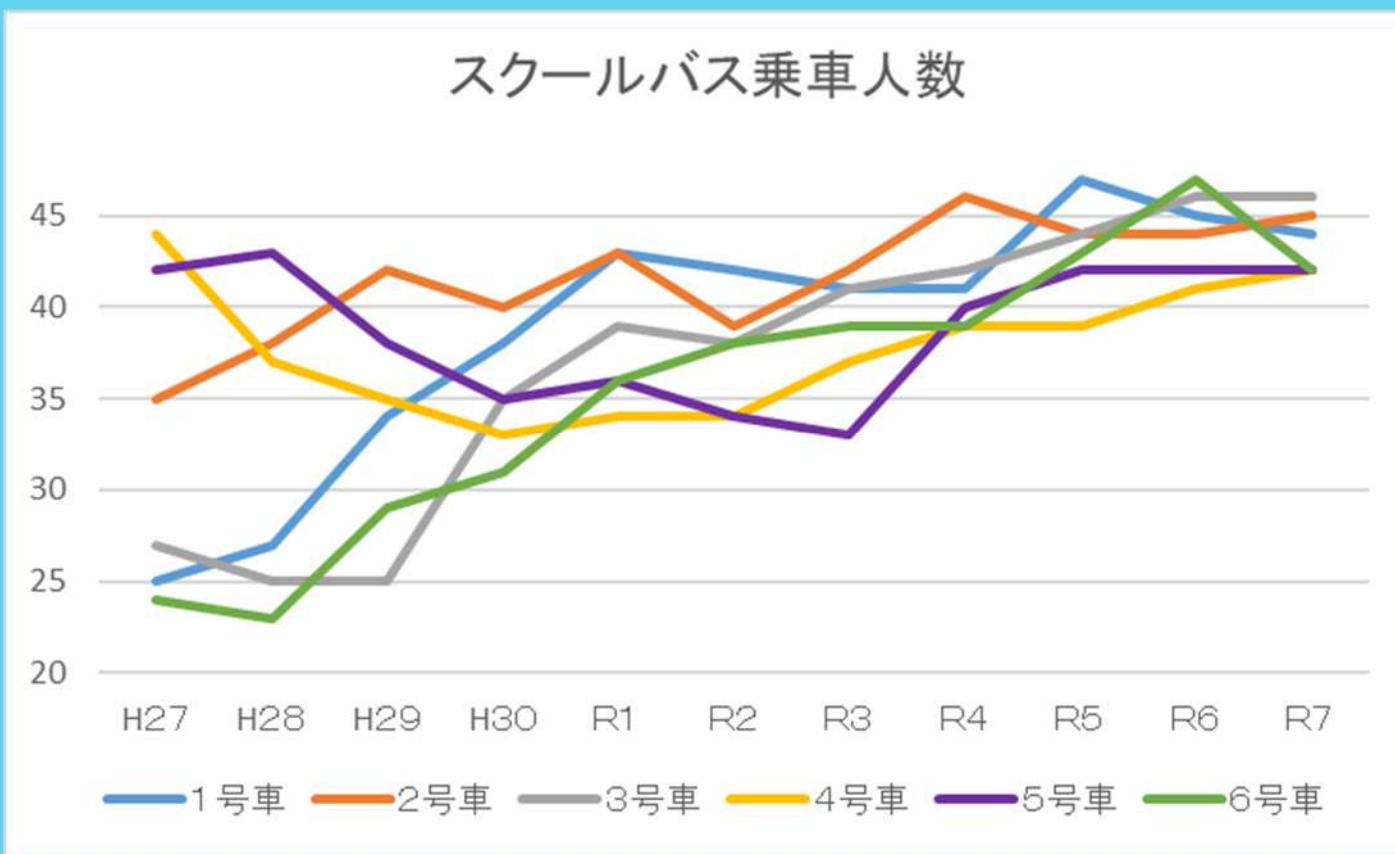


児童生徒数

開校時は216名（42学級）。以降、増加傾向続きR7は302名（56学級）。この傾向が続くとR11には336名の予測。

使用教室数

- ・R4に本来の教室数の49教室を上回り、特別教室の転用開始。R7は54教室（56学級）使用。
- ・R10には転用できる特別教室がなくなり、作業室等を使用せざるを得なくなる見込み。教育活動に大きく支障が生じる恐れ。



- ▶ 開校以来、6台のスクールバスを運行。乗車人数は年々増加し、現在では乗車率が9割を越えている。
- ▶ 車内が飽和状態で、情緒の安定が難しい児童生徒が多く、バス内での自傷行為や他害行為、立ち歩き、椅子やガラスの破損等が日常的に生じている。 36



【近隣の特支（知的）のスクールバス
平均乗車人数】

豊川	みあい	安城	三好	くすのき
33人	40人	33人	33人	44人

課題の背景と解決に向けての方向性

特別な支援を必要とする児童生徒の増加

- ▶ 義務教育段階の児童生徒の減少傾向と対照的に、全国的に増加傾向
- ▶ 豊橋市においても通級による指導、特別支援学級対象児童生徒の増加
- ▶ 小中学校での対象児童生徒の増加が、本校の児童生徒増加につながっていると推測

本地域の特別支援教育力の向上に向けた取組の必要性

- ▶ 繙続的な人事交流による専門性の高い教員の育成と、人事交流経験者を中心とした小中学校特別支援教育の充実
- ▶ 特別支援学校による小中学校への巡回指導や研修講師派遣等による特別支援教育の更なる推進

課題の解消と更なる発展に向けての試案

豊橋市小中学校と連携し、インクルーシブな学びの場の創出

新たな児童生徒の受け入れ先の模索

御静聴ありがとうございました。

豊橋市立くすのき特別支援学校